

DI (Diffusion Index=景気動向指数) とは
各調査項目について、好転企業割合から、悪化企業
割合を差し引いた値を示し、景気の現状把握や将来
の見通し予測を行う。

DIがプラスなら……好転、上昇基調
DIがマイナスなら……悪化、下降基調

記号の見方

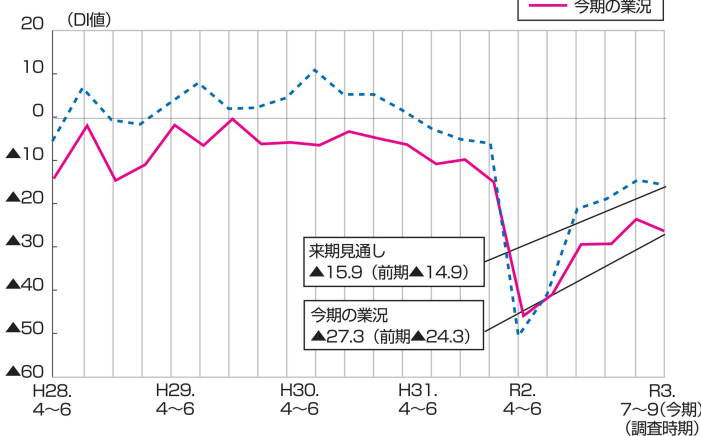
DI値	-25以下	-25~-10P未満	-10~-10P未満	10~25P未満	25P以上
景況	特に悪化 ↓	悪化 ↘	横ばい →	好転 ↗	特に好転 ↑

鹿児島商工会議所

景況調査

調査期間 令和3年7～9月
回答企業数 131社

■業況DIの推移



■産業別DI値表

		前期 [R3.4~6] (A)	今期 [R3.7~9] (B)	増減 (B)-(A)	来期見通し [R3.10~12]	
業況	全産業平均	▲24.3	▲27.3	▲3.0	▲15.9	↘
	製造業	▲29.0	▲35.5	▲6.5	▲6.5	→
	建設業	▲40.0	▲36.4	3.6	▲23.8	↘
	卸売業	0.0	▲25.0	▲25.0	▲11.8	↘
	小売業	▲31.0	▲30.4	0.6	▲14.3	↘
	サービス業	▲20.4	▲13.9	6.5	▲22.2	↘
売上額	全産業平均	▲24.5	▲23.8	0.7	▲12.3	↘
	製造業	▲29.0	▲28.1	0.9	▲9.4	→
	建設業	▲42.9	▲42.9	0.0	▲38.1	↘
	卸売業	▲5.3	▲17.6	▲12.3	5.9	→
	小売業	▲22.6	▲33.3	▲10.7	▲20.8	↘
	サービス業	▲22.4	▲5.6	16.8	▲2.8	→
資金繰り	全産業平均	▲12.0	▲11.6	0.4	▲10.1	↘
	製造業	▲22.6	▲21.9	0.7	▲15.6	↘
	建設業	▲15.0	▲13.6	1.4	▲13.6	↘
	卸売業	10.5	0.0	▲10.5	▲11.8	↘
	小売業	▲19.4	▲22.7	▲3.3	▲9.1	→
	サービス業	▲8.2	0.0	8.2	▲2.8	→
採算	全産業平均	▲23.0	▲25.2	▲2.2	▲16.5	↘
	製造業	▲25.8	▲40.0	▲14.2	▲13.3	↘
	建設業	▲38.1	▲45.5	▲7.4	▲28.6	↘
	卸売業	11.1	▲5.9	▲17.0	▲5.9	→
	小売業	▲30.0	▲30.4	▲0.4	▲26.1	↘
	サービス業	▲22.9	▲5.7	17.2	▲11.1	↘

今期業況は後退傾向。来期の業況も引続き厳しい見込み。

【今期(令和3年7～9月期)の業況】
全産業の業況DI値は、▲27・3
(前期比マイナス3・0ポイント)で、
わずかに後退。産業別に見ると、特に
卸売業でマイナス幅が拡大し、製造業
と建設業は特に厳しい業況が続いて
いる。

【来期(令和3年10～12月期)の見通し】
全産業の来期見通しは、▲15・9
(前期時の来期見通し(▲14・9)
と比較してマイナス1・0ポイン
ト)と、ほぼ変わらず、ほとんどの
業種で厳しい見通しが継続している。

【今期の売上額・資金繰り・採算】
全産業の売上額DI値は、▲23・
8(前期比プラス0・7ポイント)
で、前期とほぼ変わらなかったが、
卸売業と小売業は低下した。

全産業の資金繰りDI値は、▲
11・6(前期比プラス0・4ポイン
ト)で、ほぼ横ばいとなった。

全産業の採算DI値は、▲25・2
(前期比マイナス2・2ポイント)
で、わずかに低下。サービス業のみ
改善がみられた。

【回答企業のコメント】
・取引先や商品の見直しを行い、採算
の確保に努めたい。(製造)
・県内でもコロナの感染者が増加し
たことにより、営業活動の自粛や催
事等の中止が相次いだ。コロナ収束
まで売上回復の見通しが立てづら
い。(卸売)
・入店客数や客単価の低下に伴い、売
上も減少している。(小売)
・コロナの影響は大きいですが、来期に向
け顧客獲得のためのアプローチを
強化したい。(サービス)